

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第435号 平成24年11月14日

第2期「教師養成講座」のスタート

先週の日曜日（11月11日）、第2期の「教師養成講座」がスタートしました。会場は、藤女子大学のご厚意により教室をお借りする事が出来ました。我々主催者にとって会場の確保は常に問題になるところですが、大変素晴らしい環境の下で講座を開くことができた事に感謝しています。

さて、第2期は、第1期と同様30名の方々にご参加いただきました。その内、現役の学生は15名、既に期限付き教員として教壇に立っている者13名、その他2名となっています。

当日は、開講式に続いて早速講義がスタートしたのですが、教室内には、明るいながらも緊張した雰囲気、受講生と共にとても充実した時間を共有できたように感じています。

第2期「教師養成講座」については、今年の採用試験に合格した第1期生の方々が、サポーターとして参加してくれることになりました。共に学び、共に成長し続けようという師範塾の思いが、彼等に伝わったのだなと感激しているところです。更に、1回目の講座では、1期生のお2人から、自分達は1次試験の突破に向けてどのように勉強したか、という報告をしていただいたのですが、これが実に圧巻でした。受講生の皆さんには、恐らく強烈な刺激になったと思います。

これからも、彼らが我々の思いを受け継ぎ、若い教師の育成に一役買ってくれる事を大いに期待しています。

昨年、「教師養成講座」を始めた頃は、手探りで試行錯誤の連続でした。それでも、この講座をやり遂げる事が出来たのは、「これからの北海道教育を支える若い教師を育てたい」という思いだけで集まった、仲間の皆さんの熱意に外なりません。

また、無報酬で講師をお引き受けいただいた、多くの方々のご協力のお蔭でもあります。

結果は、28名が採用試験にチャレンジし、12名が最終合格の栄冠を勝ち取りました。

4割を超える合格者を出したことは、初めてにしては一定の成果は有ったといえるでしょう。特に、2次試験に臨んだ20名中6割が合格しており、「教師養成講座」の取り組みの方向は間違っていなかったと思っています。

もっとも、我々がなし得た事は誠に微々たるもので、受講生の皆さんの頑張りが一番大きな力であった事という迄もありません。

また、6割の受講生が受験に失敗したという現実がありますから、手放して喜んでいる訳にはいきません。

我々師範塾の関係者が、受講生に常にいい続けてきた事は「皆さんを合格させることが我々にとっての最終ゴールではない。皆さんが合格した後、志高く、実践力のある教師として教壇に立ってもらふ事、これこそが我々にとって真のゴールなのだ」という事でした。

受験予備校のつもりで受講された方には、戸惑うところもあるかも知れませんが、是非、師範塾の精神を理解していただいて、しっかりと準備を重ね、来年の採用試験に臨んで欲しいと願っています。

取り組んで来た事の結果がこれほど明確に出るといふのは、恐ろしい事です。でも、始めた以上はそこから逃げるわけにはいきません。

若者たちの夢が一步でも現実に近づくよう、関係者一同気を引き締め、応援していきたいと思っています。(塾頭：吉田 洋一)